

「子供の捉え方 ～日本と海外～」

赤松 咲

私たちが生活する寮には世界各国から留学生が集まっています。その中でも異色なのがメキシコ国籍の母親とアメリカ国籍の娘です。親子での留学はここ山西大学では前例がないのではないかと思います。母親は25歳、娘は6歳です。この親子は以前ロシアにも留学していたことがあるそうで、また母親は様々な国を旅したことがあり、韓国や日本にも来たことがあります。彼女らは英語をととても流暢に話しますが、二人でいるときは母国語のスペイン語を使っています。彼女達と他の沢山の仲間と一緒に生活して感じたことがあります。それは、日本人の子供に対する考え方と外国人のそれらは異なるという事です。はじめに大雑把に説明すると、日本人は外国人に比べて子供への寛容さに欠けている気がします。また、日本では子供の全ての責任は親にあるという考え方が一般的ですが、仲間たちの子供への接し方を見てみると、あくまで一人の人間として扱っています。子供は一人の未熟な人間、だからこそ、その欠陥を皆が補ってあげようとしてあげているのがよく分かります。では具体的にどのような点が挙げられるのでしょうか。例えば、日本では子供の声がうるさいと苦情をいれたり、警察に通報する例は少なくありません。一方、子供がうるさいのは当たり前という認識が一般的なのが海外です。以前、私はベトナムへ行ったことがあるのですが、子供がうるさいという以前に街そのものが活気づいていて、その賑やかさに色づけするように子供の笑い声が聞こえてきます。笑いながら走り回る子供を通りかかる大人はみな微笑ましく眺めていました。また中国行きのフライト中、何人かの子供が騒いでいましたが、それが当たりの光景かのように誰も止めるひとはいませんでした。ここ寮内でも同じです。親から頼まなくとも、子供が普通に周りの大人と仲良く遊んでいます。大人も喜んで子供と遊びます。それがあまりに当たりのことで、面倒をみてあげるといった感じがまるでしません。暇があればキッチンでその子供の勉強を手伝いながら片手に料理をしたり、お風呂に一緒に行きあげたり、悪い事したら叱ったり、みんながまるでその子の親のように接しています。母親もそれに対して

その状況を特別な何かと捉えている訳ではなさそうです。このような点が日本と大きく異なると思います。例えば、親が仕事や用事で子供の面倒を見る事ができない場合、託児所、自分の親、親戚、などに頼むのが一般的です。よほど仲の良い友人でないかぎり子供の面倒を頼む事はできないと思います。面倒を他人にかけて悪いなと感じてしまう気持ちがあったり、信用できる人でない限り子供を安心して預けることができないからでしょう。彼女は家事、子供の面倒、仕事、そして勉強、私には想像できない様々な困難があるのだと思います。それは彼女だけでなく、親であるならば誰もが感じるものだと思います。しかし、その苦労は周囲の人間との関わりあいによってかなり軽減されるものではないでしょうか。去年八月私が中国に来て間もないころは、皆が日常生活のすべての物事においてにこやかに助け合っていることが理解できませんでした。なにか裏があるに違いないとか、損得勘定以外で行動する意味がよくわかりませんでした。けれども、私が日本から来た留学生と知って親切にしてくれた中国人や他の留学生をみていると、損得勘定で行動している訳でなく、彼らは助け合うことや分け合うことを当たり前として捉えていて、その上で良い関係を築こうと努力しているのだと感じました。こちらで生活していて日々痛感させられるのは、大人子供に関わらず互いに助け合うことの重要さです。それは言葉だけでは意味を成さず、行動することが最も重要なのだと思いました。

2014.1.10

